

- 【宗派】 真言宗御室派
- 【本尊】 如意輪観世音菩薩
- 【開基】 宥弘法印ゆうこうほういん
- 【創建】 室町時代
- 【歴史】

当山は、今より約700年前宥弘法印が、観世音菩薩の夢告げにより、青の山の東麓観音山に七間四面の本堂並びに伽藍を建立し、聖如意輪観世音菩薩を本尊としてまつられ、青松山観音院圓通寺と称しました。

「全讃史」には、「昔は巨刹なりし」とありますが、やがて戦国の兵火に焼亡し、延宝3年(1675年)中興良意法印りょういによって、細川頼之公の居城跡と目される現在地に再興され今日に至っています。

昔の本堂跡は、「観音堂」の地名として今に残り、当山の飛び地境内となっています。ここには「三ツ岩」と呼ばれる大きな岩があり、細川頼貞ぎあの墓と言われています。義阿は、頼之公の父頼春の叔父にあたり、足利尊氏に仕え功績の高い武将でありました。

【見どころ】

観音霊場(第三十番)の石標が立つ当寺参道口から「青松山」の篇額が掲げられた山門までは、右手に枝ぶりの良い黒松の並木が赤土の参道に珊瑚のような影を落としています。

山門は、江戸中葉の造修になる和様四脚門、四本の控柱に付された転びは、礎石上で緩やかに反り返り、威風の山門に優雅さを添えています。

山門をくぐると、境内正面左に本堂、右側に太子堂が並び、さらに書院、庫裡が連なり、茶室五席を擁しています。

宝篋院塔ほうきょういんとうと本堂の間には、洒落た枯山水の庭があります。オオスギゴケの苔山に石を三、六、九個配して「弥勒の庭」と名づけています。

また、本堂左前にある**五輪塔**(町指定文化財)は、南北朝時代のもので細川家の供養塔であり、境内中央には頼之公お手植えの松と言いつた**黒松**(県指定天然記念物)が前庭を覆い尽くし、日本一の黒松として優勢を誇っていました。しかし、平成13年夏頃から松くい虫の被害を受け、翌年の4月関係者に惜しまれながら伐採され、今は幹や枝が標本として保存されています。

なお、当寺が所蔵する「不動明王二童子像」(絹本墨画・南北朝時代)三幅は、夢想国師の法弟にして頼之公と親交のあった電淋周沢りゅうりんしゅうたくの筆(県指定有形文化財)です。

【指定文化財】

- ◆ 木造如意輪観音坐像 (町指定有形)
- ◆ 絹本著色摩尼宝珠曼荼羅図 (町指定有形)
- ◆ 円通寺五輪塔 (町指定有形)
- ◆ 掛幅装「絹本著色弘法大師像」 (町指定有形)
- ◆ 掛幅装「絹本著色愛染明王図」 (町指定有形)
- ◆ 絹本墨画不動明王像二童子像 (県指定有形)

【主な年中行事】

頼之まつり	5月	午前10時頃～ 細川頼之公を法要するお祭りです。年によって詳細は変わりますが、太鼓実演やもちの接待など、その年毎にいろいろな催しがあります。
-------	----	--



かつての黒松の幹まわり

